



国際通貨研究所メールマガジン (第 13 号 2013/4/10 発行)



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)

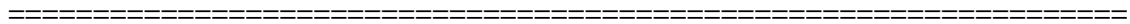


<http://www.iima.or.jp/>



※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。



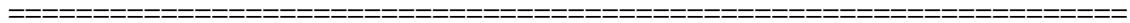
1. 理事長 行天豊雄のコラム 『波乱要因出尽しか?』

アベノミックスによる円安をきっかけに外為市場が動き出し世界的に新局面入りかと思われたが、ここへ来てどうもそうでもなさそうな感じになっている。相場を動かさそうだと思われた要因がいずれも力不足らしくなってきたから…

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/gyoten20130410.pdf>



2. 経済調査部長 兼 開発経済調査部長 佐久間浩司のコラム 『IT 革命その後』

先日、ある経済誌に **The rise of the sharing economy** という記事が載りました。個人が、部屋、車などの資産を貸し借りし合う「シェア・エコノミー」と呼ばれる世界が出現しつつあるという特集です。経済効果として、小売業…

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

(全文はこちらから)

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2013/sakuma20130410.pdf>

1. 「Occasional Paper 第 24 号」 (日本語版・英語版)

2012 年 10 月 13 日開催の国際シンポジウム「G ゼロ時代の成長と回復の原動力～リーダーなき世界における責任と役割～」の纏め。

(日本語版) http://www.iima.or.jp/Docs/occasional/OP_No24_j.pdf

(英語版) http://www.iima.or.jp/Docs/occasional/OP_No24_e.pdf

2. 「中南米諸国の構造改革 ～構造改革進捗の測定の試み～」

本稿は、Eduardo Lora 著の米州開発銀行ワーキング・ペーパー「Structural Reforms in Latin America: What Has Been Reformed and How to Measure It (Updated version)」(No. IDB-WP-346、2012 年 12 月)を紹介し、若干の考察を加えるものである。

構造改革指数は中南米各国の構造改革の進捗度をできるだけ客観的且つ共通の尺度で計測し、比較や分析を可能にしようとする試みである。こうした分析は他地域の新興国経済にも応用が可能だろう。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_11_j.pdf

3. 「マレーシア経済の現状と課題」

近年は同国が「中進国の罠」に嵌っている事がしばしば指摘され、ASEAN 域内での地位も相対的な低下傾向にある。マレー系優遇のブミプトラ政策の見直しや自動車産業の競争力の確保の問題など、難しい構造改革の課題に対する今後の取り組みが注視される。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_09_j.pdf

4. 「国際金融界への復帰が一層遠のくアルゼンチン」

同国は 2000 年代末以降国際金融界への復帰を模索してきたが、最近 2 年程度で

状況は大きく悪化の方向にある。特に、民間債務再編の法的有効性が崩れた場合、
対外債務支払返済額が大きく影響を受けて、2000年代半ば頃の状況に逆戻りするリ
スクがある。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2013/NLNo_08_j.pdf

■今月の IIMA

新年度を迎え、当研究所（IIMA）も新しいメンバーを迎えました。心機一転、今
年度も IIMA をよろしく願います。

新年度の世界経済は大きな波乱なく幕開けしたようですが、欧州経済の行く末は
なお予断を許しません。景気後退に苦しむイタリアでは政権樹立の目途が立たず、
政治・経済両面での不透明な状態が続いています。一方、改革を先行させ、果実を
得つつあるドイツに対しては、欧州内で肯定的な見方が増えているようです。ドイ
ツの経済モデルも研究に値しそうです。

資源大国、21世紀の成長フロンティアと言われながら2012年、ブラジルの成長
率は0.9%に低迷しました。新興国とは思えない低成長です。ブラジルの成長神話
に陰りはないか、持続的な成長のためには何が必要か、新興国経済の研究は今年も
続けます。

IIMA は今年度も以上のような問題意識で研究を行い、成果はホームページに順次
掲載して参ります。皆様のご指導、ご鞭撻をよろしく願い致します。

次号：2013年5月14日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

◇発行◇+++++

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-2 三菱東京UFJ銀行日本橋別館12階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

+++++ Copyright(C) IIMA All Rights Reserved.+++++